



SFTC会員カンファレンス

2018 開催報告



2018年7月9日（月）に筑波大学東京キャンパス文京校舎にて『SFTC 会員カンファレンス 2018』を開催し 110 団体の参加がありました。今年度は、全体会議だけでなく分科会と懇親会を実施し、会員カンファレンスとして3部構成で開催しました。

第1部のSFTC全体会議では、スポーツ庁審議官の藤江陽子氏、SFTC事務局ディレクターの河原工より2017年度の活動総括および2018年度の方針に関する報告・説明が行われました。（詳細については次ページ参照）

加えて、スポーツ庁長官から感謝状の授与が7団体に対して行われました。（受章団体は7～8ページにて紹介）

今回の感謝状は平成29年度に認定事業を実施した運営委員会・政府関係機関を除く会員団体を対象とし、スポーツ庁にて選定されました。



感謝状の授与は鈴木大地スポーツ庁長官より行われ、表章に先立ち、ご挨拶いただきました。

続いて、これまでSFT事業に自ら関わられたSFTサポーターの皆様からVTRメッセージをいただきました。

第1部の最後は外務省大臣官房人物交流室の三上陽一室長よりご挨拶いただきました。

「SFT全体会議に多くの方が参加されていることが確認

でき、また官民が共に共通の目標に取り組んでいることが確認できて非常に良い取り組みだと感じています。外務省としてもスポーツ外交の観点から

SFTに貢献すべく、スポーツを通じた国際交流、国際協力としてスポーツ関係者の派遣や招聘、機材の輸送、支援、施設の整備などの努力を行っています。2020年に向けた更なる盛り上がりも感じており、外務省も引き続き努力を進めていきたいと考えています。」

第2部では『SFTC会員団体対象アンケート』の中で事業実施の課題として挙げられた3つのテーマ（人材活用・マネジメント、資金調達・マネタイズ、広報・メディア連携）に関する分科会が行われました。（詳細の内容は6ページ参照）

分科会終了後に行った第3部の懇親会では、カンファレンス参加者が一堂に会し、ネットワーク構築の機会となりました。



カンファレンスの様子はSFTのYouTubeチャンネルからご覧いただけます。
YouTube チャンネルはSFTホームページのトップスライダー、または次のURLからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCJOYeNg3TDwuqoLgO8Rit2w/videos>

カンファレンスの様子のほか、SFTサポーターのメッセージや事業の様子などを掲載しております。
是非ご覧ください。

2017年度総括と2018年度方針

スポーツ庁プレゼンテーション：
「ポストSFT」に向けてスポーツを通じてつながる世界

1 見えてきた裨益者数目標「1000万人以上」

2014年から始まったスポーツ・フォー・トゥモローの裨益者数実績は、初年度56万人から徐々に拡大し、2017年度末には664万人まで広がりました。大きく実績を伸ばすことができた要因としては、途上国における学校体育カリキュラムの策定支援などが実を結んだことが挙げられます。今後は、数値目標の達成のみならず、どのような効果を当該国・地域の人々にもたらすことができたのか、という質的な成果も重要になってきていると考えています。(スライドA)

2 国際会議やイベントでの情報発信

2016年は、日本で行われましたスポーツ文化ワールドフォーラム、2017年はMINEPS VI、日ASEANスポーツ大臣会合など各国のトップが集まる場で、SFTの取組について発信しました。各国の政府レベルでの協力も拡大しており、SFTを通じた国際貢献により国際スポーツ界での日本のプレゼンスの向上につながっていると考えます。

3 2021年以降に向けて「100カ国・1000万人」から「SDGs」へ

2021年以降SFTCのネットワークやノウハウをどのように生かすかについても検討しています。スポーツ国際戦略のビジョンでは、2020年を超えて2030年までに、スポーツの国際展開を通じ、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」に掲げる社会課題の解決に向けて、貢献をしていくこととしています。これまでのSFTの取組もSDGsとの関連付けができると考えており、2021年以降もSFTCのネットワークを活用し、スポーツでSDGsに貢献していく日本の姿を示していきたいと考えています。(スライドB)

SFTC事務局プレゼンテーション：
アンケート結果から見えてきた課題と対応

1 認定事業のメリット創出 (露出機会の増加・マッチングの成功率向上)

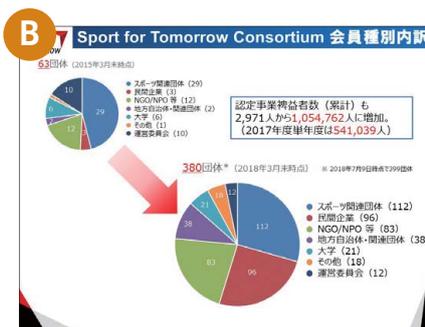
認定事業をSFTのHPやSNSで紹介しております。加えて、国内イベントや国際会議などでブース出展をする機会を増やし、認定事業について積極的に発信しております。また、認定事業の情報が蓄積されることでマッチングの成功率も向上すると考えております。

2 メーリングリスト・SNS活用ルール拡大

認定事業において、用具の募集、クラウドファンディングの呼びかけ、イベント参加者募集などの、協力依頼について、発信できるようにしました。原則一回ですが、メーリングリストでは約400団体に、SFTのSNS公式アカウントでは一般個人向けに発信できます。また、認定事業以外でも、例えば国内でのセミナーの案内など同様に募集案内をできるようになりました。スポーツを通じた国際協力・交流に関心を持つ団体・個人へ発信ができますので、是非、ご活用ください。(スライドC)

3 広報協力のお願い

事務局としては、未だ世間一般に対して「SFT」の認知度が低いと考えています。事務局が実施したアンケートで皆様に「広報」でご協力いただける内容を伺いましたが、その結果は「イベントや大会でのチラシなどの配布」が一番多く、次いで「(HPやSNSを含めた) 保有メディアでの情報提供」でした。チラシの配布や、メディアでの情報シェアにご協力いただける際には、事務局にお声がけください。よろしくお願いいたします。



C メーリングリスト・一般向けSNS活用ルール

SFT認定事業に対する協力者募集・参加者募集

(例) 開発途上国に寄贈するスポーツ用具の募集、クラウドファンディングの呼びかけ、イベント参加者募集など

発信回数 メーリングリスト (SFTC会員団体約400団体) : 1事業につき原則1回

発信方法 メーリングリスト: 発信文を事務局に提出。事務局より発信。事業実施団体・連絡先を記載し、主体を明らかに。 SNS: 1事業に原則1回

責任の所在 事業は実施団体 (会員団体) の責任において実施。

他、スポーツを通じた国際協力・交流に関するセミナー・イベント、リソース提供について、メーリングリストやSNSで呼びかけ可。

※プレゼンテーションのスライドについては、7月13日付メーリングリストで各団体事務連絡担当者にお送りしておりますので、よろしければご覧ください。また、再送付のご希望がございましたらSFTC事務局までご連絡ください。

Sport for Tomorrowを通した 「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献



■ スポーツ×「SDGs」

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals/SDGs) は、17のゴールと169のターゲットからなる、国連加盟国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。2015年9月の持続可能な開発サミットにおいて採択されました。

さらに、国連では、スポーツがSDGsを達成するための費用対効果の高い重要かつ強力なツールとして認識されています。

この世界的な潮流を受けて、SFTC運営委員会では2020年以降を見据え、各事業とSDGsの関連性に着目しながらSFTを推進していくことを決定しました。

(参考) スポーツと持続可能な開発 (SDGs) http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/ (国連広報センター)

■ 認定事業申請・報告では「関連するSDGs」をご記入ください。

認定事業申請書・報告書に新たに「関連するSDGs」の項目を設けました。SDGsの17の目標のうち、申請される事業と関連した目標がありましたらご記入くださいますようお願いいたします。複数選択いただくことも可能です。

※会員専用サイトについては、現在機能拡張中です。会員専用サイトよりご登録いただく場合は、「期待される成果」の欄にご記入ください。

■ SDGsと関連した認定事業例

※下記で紹介する事業の中には複数の目標 (SDGs) に関連づけて実施されている事業もありますが、ここでは特に関連性の強い目標に絞ってご紹介いたします。



目標3: あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

京都マラソン2018

実施団体 京都マラソン実行委員会 (京都市)
事業実施期間 2018年2月18日

市民ランナーが都大路を駆け抜ける「京都マラソン」を、参加者・応援者・市民が一体となり盛り上がる大会として開催し、**市民スポーツの振興・健康増進を図った**。国際文化観光都市・京都の魅力を堪能できるコースで毎年海外からも多くのランナーが参加し、京都経済の活性化、京都ブランドの更なる向上にも繋がっている。



目標4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

2018年ウピアム難民キャンプサッカーフェスティバル

実施団体 シャンティ国際ボランティア会 **協働団体** リリーグ・国際交流基金
事業実施期間 2018年6月20日

シャンティ国際ボランティア会は、2000年からタイ国境にある7ヶ所のミャンマー (ビルマ) 難民キャンプで図書館活動、絵本出版などの教育・文化支援の活動を実施している。「世界難民の日 (6月20)」を機に、タイ国境ウピアム難民キャンプ (ターク県ポッパラ郡) で開催したサッカーフェスティバルでは、日頃から実施している教育支援の活動とサッカーを結び付け、サッカー教室に参加した子どもたちに絵本の読み聞かせを行った。イベントには、元リリーガーで現在タイ在住の本田慎之介氏が参加し、サッカーに関する絵本の読み聞かせを通じて子どもたちに夢を持つことや読書の大切さを伝えた。



5 ジェンダー平等を
実現しよう

目標5: ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る

JUMONJI For Your Smile Project

実施団体 十文字学園女子大学

事業実施期間 2017年4月1日～2018年3月31日

十文字学園女子大学カレッジスポーツセンターから体育備品・スポーツ用具・教材・文房具・玩具等を、**女性のエンパワメントを行う現地NGO「NOWSPAR」**を通じて、ザンビアの人々に寄贈した。

ザンビアでは、女性の地位が男性に比べて低く、平等に経済活動機会が得られないなどの課題が見られる。

十文字学園女子大学が用具の寄贈を通じ、現地NGOの活動をサポートした。

10 人や国の不平等
をなくそう

目標10: 国内および国家間の不平等を是正する

第2回 カンボジア「くっくま孤児院」の子ども達とサッカー交流

実施団体 一般社団法人アセアン・リユース・プロジェクト

協働団体 株式会社クーバー・コーチング・ジャパン

事業実施期間 2017年7月25日

カンボジア、プノンペンにある「くっくま孤児院」の子ども達とサッカー交流を行った。

スポーツを行う機会の少ない孤児院の子どもたちに、広いサッカー場で思い切り楽しんでもらうことが本事業の目的である。

スポーツフォートゥモローを通じて、株式会社クーバー・コーチング・ジャパンより寄付されたサッカー用具も子どもたちに届けられた。

14 海の豊かさを
守ろう

目標14: 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

ライフセービング・豪州合宿における国際交流

実施団体 大竹サーフライフセービングクラブ

事業実施期間 2018年2月28日～3月18日

大竹サーフライフセービングクラブに所属する学生が、姉妹クラブであるオーストラリアのクラブで、現地の文化・生活を体験しながら、日本のライフセービングとの違いを共有し、ライフセービングの観点での異文化交流を図った。また、現地の中学・高校生の練習に参加し、オーストラリア独自の練習への取り組み方や姿勢を学んだ。本事業は、ライフセービングを通して、オーストラリアの人々とともに、**海との関わり方や海洋資源の貴重さなどについて学ぶ機会を創出した**と言える。

16 平和と公正を
すべての人に

目標16: 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

ボスニア・ヘルツェゴビナにおける 民族融和を目的としたスポーツアカデミー (マリモストプロジェクト)

実施団体 特定非営利活動法人Little Bridge

協働団体 外務省・国際協力機構(JICA)・ハウスコム株式会社・日本国際協カシステム(JICS)

事業実施期間 2016年10月～(継続中)

ボスニア・ヘルツェゴビナのモスタル市において、5歳～14歳までの子どもが民族を問わず通えるスポーツアカデミー「mali most(マリモスト)」を設立した。

ボスニアでは90年代の民族紛争から国内に住む民族の対立が20年以上続いている。mali mostは、様々な民族出身の子ども80名が一緒に**スポーツを楽しむ機会を提供し、対立する民族が融和するきっかけを創り出している。**

2017年8月3日～10日に開催したスタディツアーではmali mostに通う子ども10名が来日し、日本の子どもとのスポーツ交流や文化体験を行なった。



SFTC会員カンファレンス2018 第2部分科会

「分科会」では、「SFTC会員団体対象アンケート」の中で、事業実施の課題として挙げられた上位3つのテーマを取り上げ、事例や知見の共有を行いました。



人材活用・マネジメント スポーツを通じた社会貢献活動を実施していく上での人材登用について

特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN) : 竹澤正剛氏

公益社団法人少年軟式野球国際交流協会 (IBA) : 野口孝一氏、吉本光二氏、真鍋旺嵩氏

JSVNの竹澤様からは、ご自身の豊富なスポーツボランティア経験に基づき、ボランティアの協力を持続的に得ていくにはどうすれば良いのか、という点に関してお話を頂きました。加えて、同団体の事業について触れ、スポーツボランティアを育て、繋げ、活動を発信することの大切さについてご共有を頂きました。

IBAの野口様からは世界大会を始め、国内外で開催する軟式野球を通じた国際交流事業において、現場を支えるボランティアスタッフへ行ったヒアリングを踏まえて、IBAに関わろうと思ったきっかけや、やり甲斐、継続的に関わろうとする理由等についてお話を頂きました。他方で、スタッフの高齢化が課題として挙げられ、若いスタッフの登用に関しては大学の軟式野球連盟との協業やIBAの大会で活躍する中学生への協力依頼、過去の大会参加者が歳を重ねてスタッフとして参画するといった人材の循環を期待しているというお話がありました。



資金調達・マネタイズ 社会貢献活動においてどのように資金調達していくか

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 : 三島理恵氏

熱中症予防声かけプロジェクト : 山下太郎氏

三島様からは、支援者・サービス利用者間の相乗効果を生かした、事業と組織の成長について発表を頂きました。資金調達で重要なことは「どう資金を集めるか」ではなく「ミッション・ビジョンが明確になっているか」、「中長期的な戦略が考えられているか」、「事業の評価を行っているか」ということ。7割の人が社会に貢献したいと考えている中で、実際に寄付を行っている人は4割。この差を埋めていくことがファンドレイザーの役割であるとお話頂きました。また、日本と諸外国の寄付の規模比較や、『遺贈寄付』などファンドレイジングの形態について触れて頂きました。

山下様からは、熱中症予防に取り組む上での企業との連携についてお話を頂きました。熱中症に対して社会の関心を集めるために、企業の広報活動や行政と連携するという事例を通して、『国や補助金に頼らない』、『人々の日々の活動に付加できる価値を考える』という観点で行動をしていくことの大切さについて、発表を頂きました。



広報・メディア連携 国際協力・交流活動を実施するために、どのように社会とコミュニケーションを図るか

公益財団法人ジョイセフ : 小野美智代氏

ヤフー株式会社 : 古賀貴裕氏

小野様からは妊産婦死亡削減を目指す世界的なアライアンスとして『ホワイトリボン運動』を取り上げ、中でも3月8日の国際女性デーに合わせたランニングイベント『ホワイトリボンラン』について発表を頂きました。イベント前後の様子がSNSで世界中にシェアされることで、活動の理解促進や、支援者増加に成功した事例としてご紹介を頂きました。

ヤフーで社会貢献事業に従事する古賀様からは、同社のサービスである『ヤフーボランティア』、『ヤフーネット募金』の取り組みが紹介されました。

ヤフーのサイトで募金やボランティア募集が紹介されることで各団体・組織の信頼性が増し、支援者を多く募ることが可能になる。その信頼性は、100項目に登る審査項目によって担保されているとお話がありました。



長官感謝状受章団体紹介

スポーツ庁長官感謝状は2017年度に承認された認定事業を対象とし、スポーツ庁長官表彰規定及び、長官感謝状の方針に沿う団体を表彰するものです。

今年度は、以下の5項目に該当する団体に感謝状が贈られました。

長官挨拶

「Sport For Tomorrow は官民が連携して事業を行っていることに意義があります。本事業は2013年に安倍首相が制定

した“約束”を守るために官民が一体となって活動しています。特にこの年で裨益者数が300万人程増えました。この勢いでいけば来年で目標を越えるのではないかと期待しています。来年は2019年ラグビーワールドカップが開催され、2020年東京オリンピック・パラリンピックも近づきスポーツの機運も益々高くなることが予想されますので、この勢いで目標を達成できるように、今後も更なるご協力をお願い致します。

SFTを行うことで日本人が世界で更に高く評価される事に繋がると考えます。皆さんで盛り上げて行きましょう。」

認定事業で最も多くの裨益者に貢献

株式会社太陽インダストリーアフリカ

太陽インダストリーアフリカでは、ナイジェリア連邦青年スポーツ省と連携し、現地の有望アスリートを日本の高校に3年間奨学金で留学する制度を2016年から運営している。ナイジェリアではスポーツ用具の不足によりスポーツ競技大会が開催できない等の問題が発生していたことから、複数のSFTC会員団体よりスポーツ用具(31645点)を募集し、現地に届けた。自社での負担により現地に用具を届けることにより、会員団体のマッチング機会の創出にも貢献した。

コメント まずは嬉しいです。ありがとうございます！ウチみたいな中小零細、個人事業主のような会社は、なかなか認められないことが多かったんで、これだけ団体数があるなか「最大裨益者」として受賞できたことは、スタッフひとりひとりの誇りです。これからの仕事の糧になります！

本事業に関連するSDG(持続可能な開発目標)



多様性を尊重する世界

特定非営利活動法人モンキーマジック

ブラインドクライミング世界チャンピオンであるモンキーマジック代表の小林氏自身が、ケニアの盲学校に通う子どもたちを対象に、クライミングクリニックを開催。日常的にスポーツを行う機会の乏しい盲学校の子どもたちに対して、スポーツを通して笑顔を増やし、自己効力感を高める機会を提供した。クリニックは、ケニアの盲学校の先生とともに運営し、これまで繋がりがなかったクライミングジムと盲学校の接点を構築することで、持続的な運動機会の創出にも貢献した。

コメント 僕らのような凄く規模の小さいNPOがやる事業なんて評価に値しない小さなものだと思っていたんです。そういう活動を、このようにきちんと評価して頂けたというのが、まずとても嬉しかった。100カ国1000万人という極めて大きな数値目標がある中で、数値目標にもあまり貢献できないのではないかと考えていたんです。きちんと活動の中身そのものを評価して頂けたと思っているので、その意味でとても嬉しいです。

本事業に関連するSDG(持続可能な開発目標)



持続可能で逆境に強い世界

特定非営利活動法人難民を助ける会(AAR Japan)

難民の子どもたち、地元ウガンダの子どもたちを含め、多様な背景を持つ子どもたちがスポーツを通じて交流し、お互いを理解するためのスポーツ(サッカー・ネットボール)大会を開催した。スポーツの価値を活用し、難民という厳しい境遇にいる人々に心のゆとり(他民族が異文化を理解する機会)を提供。子どもたちが通う学校の教員からは「経験を共有することで異なった国籍の児童たちの距離が近くなり、友情を育むことができた」などの感想が多く寄せられた。

コメント スポーツをすることによって普段対立してきた人たちが話をするようになったり、仲良くなったりと見られる。そういった意味で、非常にこの取り組みというのは意義のあるものだと思っていて、今回それを評価して頂いたのは大変心強く、嬉しく思っております。どうしてもスポーツという何となく遊びに見えてしまって、余暇のような印象がありますけれども、難民同士、あるいは難民と地元住民との対立を緩和する、そういう手段にもなりうるものなので、非常に有効だと思っております。

本事業に関連するSDG(持続可能な開発目標)



クリーンでフェアな世界

特定非営利活動法人グローバル・スポーツ・アライアンス(GSA)

国連環境計画(UNEP)と連携して日本式UNDOKAIを開催し、参加者に対して植樹やクリーンアップなどの環境教育プログラムを提供。運動会事業は、スラムエリアに住む子どもたちから、各地域のリーダーを育成することを目指して2005年から継続的に実施している。"UNDOKAI"を経験した子どもたちは、日々の生活の中でも仲間と協力する姿が垣間見られ、プログラム経験者は、子どもたちのロールモデルとなり、アシスタントとして再び活動に協力してくれるなど著しい成長が見られる。

コメント スポーツを通じてコミュニティを変えていくということをずっとこのGSAでやっています。僕は2005年に始めてから毎年8月に行っていますが、当時小さかった子が今は僕より背が高い。そういう子たちにはまた1年に1回スポーツキャンプというのがあって、ただスポーツをやるだけではなくて、環境教育だったり、公衆衛生だったり学ぶプログラムがあります。そんなことをもうかれこれ10何年続けています。長く続けてきた活動を、表彰して頂けるのは嬉しいです。

本事業に関連するSDG(持続可能な開発目標)



異分野間の連携のモデルとなる取組により SFT事業の促進に貢献

一宮町サーフィン業組合、株式会社商船三井、一宮町

オリンピックのサーフィン会場に、一宮町が決定したことを契機に一宮町サーフィン業組合が隣接するいすみ市サーフィン業組合と連携しサーフボードを回収。商船三井が輸送に協力し、課題だった現地での輸送を有限会社ガスコがつかなぎ、南アフリカの現地NGO団体Surfer's not Street Childrenに寄贈した。現地輸送に協力した有限会社ガスコは、南アフリカのルイボスターの日本への輸入会社で、現地への恩返しをしたいという思いがあり、今回、東京大会の開催地に決まった一宮町から世界へ貢献したいという思いに合致した形となった。サーフボードを通し

てつながっていく連携事業としてモデルとなる取り組みであり、SFT事業の促進に貢献した。

コメント 国際的な海上輸送のネットワークが、アフリカのお子さんたちの健全な育成の役に立ったというのは大変嬉しく思います。

港まで届けるのは商船三井の船によるものなので、ダーバンまでは絶対に届ける自信があるんですが、そこから先の子どもたちの手に確実に届けることができて良かったです。(株式会社商船三井)

本事業に関連するSDG(持続可能な開発目標)



スポーツ庁長官感謝状(概要)

対象団体:

- ・2017年4月から2018年3月末までに承認された認定事業
- ・スポーツ庁長官表彰規定及び、長官感謝状の方針に沿う団体

表章項目:

1. 認定事業で最も多くの裨益者に貢献

政府関係団体については対象外とする。

2-1. 多様性を尊重する世界

スポーツは、人種、言語、宗教等の区別なく参画できるものであり、国境を越え人々の絆を育む。スポーツを通じた国際交流により、「多様性を尊重する世界」の実現に貢献する。

2-2. 持続可能で逆境に強い世界

スポーツは貧困層や難民、被災者など困難に直面した様々な人の生きがいづくりや自己実現のきっかけとなり、スポーツによる開発と平和への支援により「持続可能で逆境に強い世界」の実現に貢献する。

2-3. クリーンでフェアな世界

スポーツは他者への敬意や規範意識を高められるものであり、日本が率先して模範となることで「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献する。

2-1~2-3については、第2期スポーツ基本計画の中でSFTが位置づけられている「スポーツで「世界」とつながる！」において強調されている項目。

3. 異分野間の連携のモデルとなる取組によりSFT事業の促進に貢献

SFTC事務局からのお知らせ

グローバルフェスタJAPAN2018にSFTC事務局ブースを出展します!

「グローバルフェスタ」は毎年「国際協力の日」(10月6日)を記念して開催され、今年で28回目となる国内最大級の国際協力イベントです。

昨年は、2日間で約12万人の方が来場し、大いに盛り上がりました。

今年のテーマは、「Action for all ~小さなことから変わる明日~」ということで、「持続可能な開発目標(SDGs)を

切り口に、日本の国際協力のと入り組みを分かりやすく発信するイベントとなります。

SFTC事務局では、ブースを出展し「SFTの活動紹介」やご来場者が楽しめる企画を予定しています。

皆様もお時間があれば、是非SFTC事務局ブースにお立ち寄りください。

【開催情報】

名称: グローバルフェスタJAPAN2018

開催日時: 2018年9月29日(土)・30日(日) 各日10:00 ~ 17:00

開催場所: お台場 センタープロムナード(シンボルプロムナード公園内) 東京都江東区青海1-2

主催: グローバルフェスタJAPAN2018実行委員会

入場料: 無料

オフィシャルサイト: <http://www.gfjapan2018.jp>

SPORT FOR TOMORROWホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。 <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。

発行日: 2018年8月31日